



生物多様性 3 Realities to 1 Real

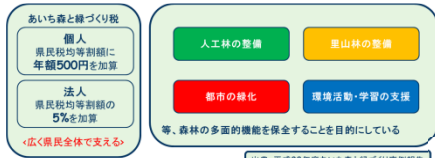
グループ名：生物多様性

メンバー：市川勝久、梶田佳揮、松浦えり子、守屋実

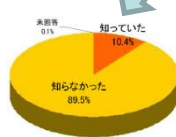
チューター：武田淳、宮川鈴衣奈

現状の把握

【あいち森と緑づくり税】



県民の認知度は低く、
約9割が知らない
(平成24年県民アンケート)



出典：平成28年度あいち森と緑づくり事例報告 図1 あいち森と緑づくり税の認知度

人口が減少すると、財源確保が困難になることが予測される

都道府県	2040年 推計人口	2010年 人口	人口増減	増減率
愛知県	6,855,632	7,410,719	-555,087	-7.5%

出展：統計メモ帳 by "eCitizen.jp" 2040年 愛知県の市町村将来推計人口ランキング

20年後に向けての提言の概要

【“3Realities to 1Real”アプリ】を活用した生態系サービスの周知

3 Realities (3Rs)

- VR(仮想現実): 三次元空間を視覚・その他の感覚を通じた疑似体験を実現できる技術
- AR(拡張現実): 現実空間に付加価値を表示し現実世界を拡張する技術
- MR(複合現実): CGなどで作られた仮想世界と現実世界を複合させた技術

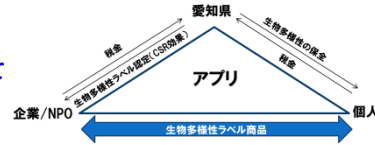
1 Real (1R)

- 現地に訪れて自然環境について実体験すること

- ① 生物多様性への理解を深めるツールが必要
- ② 理解を深めるツールを活用してもらうための取り組みが必要

3Realities to 1Real”アプリの活用

- ・20年後には格段に進歩していると予測される映像技術を活用
- ・「生物多様性」や「生態系サービス」を体感して意識の向上を図る



提案の内容

アプリを活用したリアル感のある情報発信

生物多様性ラベルから誘導/魅力的なコンテンツを随時更新

3Rs(高精度な疑似体験) ⇒ 1R=Real(生物多様性を体験)

【アプリ】



読んでもらう工夫
写真入りの
生物多様性クイズを
入れて目を引く

提案実現のための具体的な取り組み (アクションプラン)と実現可能性

【具体的な取り組み】

アプリの作成
生物多様性ラベルの導入

【実現可能性】

アプリ作成予算: Max. 1,000万円
維持管理・更新の工数確保: 200万円~300万円/年

- ・アプリの作成そのものはコスト的にも十分実現可能と考える
- ・生物多様性ラベル: 対象の特定や認定基準の策定の工夫、企業の賛同・協力を得る為の広報・周知活動が必要
- ・アプリの魅力・独自性アップの為に、県内のNPOや生態系ネットワーク協議会などの協力を仰ぐ必要がある



波及効果

アプリ活用により実現できること:

- ・生物多様性保全活動の促進
- ・NPOの活動に対する交付金のアップ
- ・NPOの活性化・ネットワーク化
- ・ストレス・リラクゼーション効果 (癒し効果)
- ・レクリエーション効果 (エコツアーなど)
- ・実体験を通して生命の尊さ・重要性を実感 (子供への情操教育)
- ・環境教育・啓発活動 (あいち森と緑づくり税のサポート)
- ・企業のCSRサポート

“あいち森と緑づくり税”を継続する場合の個人負担額に関するアンケート調査結果 (平成24年 県民アンケート)



継続はできても、増額は難しい(現状)

県民に「生態系サービス」の価値を理解してもらい、応分の負担を厭わない世論醸成への波及(期待)

図2 あいち森と緑づくり税の今後の負担額